

修了生から教員に 修了から10年 今教壇に立って見えること

14期生を迎えた春、RBSの1期・2期の修了生でもあるお二人の先生に当時について語っていただきました。

当時に振り返って 編

入学のきっかけを教えてください。

栢谷 37歳の時に一期生として入学しました。当時転職した会社では、スキルを持った人が多く、自身のスキルアップを考えていたところ、母校の立教にMBAができるという募集広告を見つけて。海外留学も考えましたが、社費留学制度はエンジニアにしか認められていなかったのと、転職直後に退職して自費留学するという選択肢もなかったので、日本での進学を決めました。

北見 企業の不祥事対応などのコーポレートコミュニケーションを実務で担当しており、クライアントの役員に助言する機会が多かったんです。提案では経営の知識が求められていると感じ経営大学院の進学を考えました。当時は夜間でMBA取得できる学校が少なく、立教は進学相談会での雰囲気がよくて決めました。

印象に残っている授業は？

栢谷 「ビジネスシミュレーション」。当時は専用ソフトでの入力でしたが、僕たちは1期で開発途中ということもありバグが多くて…。毎回亀川先生に喰らいついていました。当時栢谷君はうるさかったと今でも言われます。

北見 いろいろあったけどシミュレーションが一番ためになったと思う。メンバーもいろいろ、年齢もバックグラウンドが違うなかでどう折り合いをつけていくか通じて学びましたね。

栢谷 様々な先生が繰り返し言われていることだと思いますが、「ゲーム」をやりきっているわけではなくあくまで意思決定のプロセスを学びにきているので…。

北見 STPや競争戦略のフレームでと毎週考える視点が与えられていて知識を総動員して毎週発表していたな…。

栢谷 MBAとして1期目の授業だったので、社会人のつくるプレゼンは学部生と違うなとおっしゃっていたのは印象的でした。

北見幸一
戦略部長
電通パブリックリレーションズ
コーポレートコミュニケーション



北見先生が語る一番の学び

大きくは経営視点でアウトプットができるようになったことですね。私は文学部出身だったのでそもそも経営学用語からして不慣れ。経営計画室という部署に在籍した際に、現場視点だけではなく会社視点として物事を俯瞰して見られるようになっていたことは役立ちました。あと周りの目は確実に変わりましたね。

きたみ こういち◎2期生としてRBS修了、立教大学大学院 経済学研究科 経営学専攻 博士課程後期課程修了後、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授を経て現職。コーポレート・コミュニケーション立案の実践を担う一方、RBSでは「パブリックリレーションズI・II」を担当する。

ますたに よしお◎1期生としてRBS修了後、立教大学大学院 経済学研究科 経営学専攻 博士課程後期課程修了。総合商社勤務を経て、現在大手メーカーに勤務する傍ら、ビジネスデザイン研究科で教鞭をとる。研究テーマは日本企業のグローバル化の測定（経営戦略の評価など）とグローバル人材育成。

立教大学院
ビジネスデザイン研究科
特任教授
榎谷義雄



榎谷先生が語る一番の学び

一番は研究が楽しくなったことです。学びを業務に還元することが目的のひとつであるビジネススクールの成果としてはよいのか？という疑問もありましたが、結果的に博士課程（PHD）への進学を検討することとなりました。あとは単純に知識がどんどん自分のものとして身に付いていく過程を味わえることが嬉しかったです。

続いて現在教壇にたつお二人だからこそ、現役生に期待することをお話いただきました。

教員の立場として 編

北見 1期生、2期生は自分たちが学校をつくるという雰囲気です。特殊だったと思います。けれど、みんな覚悟を決めて学びにきていた。大学院での生活は、機会を生かすも殺すも自分次第でしょう。忙しい中時間とお金を費やしているのだから、積極的なコミットメントがROIを高くする。ディスカッションを通して自分の考えを見直し、変えるきっかけとして欲しいです。

榎谷 社会と同様に豊かになり相対的に恵まれ選択肢が多い。今の学生を見ていると時間の使い方ひとつでも、もったいないと感じることが。課外活動は多いに結構だが徹夜して講義やゼミに来れないでは本末転倒。あれもこれも、結果根無し草になってしまうケースもあるのでは…と。

北見 私たちの時代と今の大きな違いは所与のレベル。当時は決まりがなかったのでどんどん提案して実行に移していました。例えば学生同士で中国へ視察旅行を組み、まだ当時小さかったアリババドットコムへの見学、浙江大学で現地学生と意見交換とプログラムを組みました。せっかく皆それぞれ良いネットワークを持っているんだから有効活用してほしい。もちろん今の学生の方が優れていることもたくさんあると思う。

留学生に期待することは？

榎谷 僕はグローバル系の科目を多く担当しているからか留学生と接する機会が多いが本当に頑張っていると思う。留学生には、今の自分の努力が留学生たちの10年後の伝統を作ると思ってやってほしいです。

北見 多様性があるということは国際化の疑似体験ができるということだから。

榎谷 企業がグローバル人材を育てられないから大学にグローバル人材教育を期待されている。留学生用の授業が充実すると特色の一つにもなりうるからね。

最後に…。

榎谷 まずは自分の価値で勝負できるような人材を目指してほしい。限られた時間を使って2年間最大限の成果をあげてほしい。

北見 周りをみるとRBSに来たことで昇進、転職や起業などステップアップを果たしている。ひとつのきっかけにはなるので自信を持ってやってほしいですね。